

14. 腎がん

○

○:専門とするがん △:グループ指定により対応しているがん ×:診療を実施していないがん
 ※別紙4に入力した内容が反映されています。
 ※診療を実施していないがんについて、表の記載は不要

集学的治療・標準的治療の提供体制
 ○:あり △:グループ指定により対応(地域がん診療病院のみ選択可) ×:なし ○

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況(○:実施可/×:実施不可) /昨年実績(あり/なし)※平成25年1月1日~12月31日							各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ			
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	状況	手術			化学療法	インターフェロン療法	放射線療法 体外照射	ページの見出しとアドレス ※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容			
				開腹手術	腹腔鏡下手術	腹腔鏡下小切開手術						治療内容	治療実績	医師の専門分野	
1 泌尿器科	4	4	状況 ○	○	○	○	○	○	×	当科では出来る限り小さな皮膚切開で手術を行うことを心がけています。 腎癌や腎盂・尿管癌に対する腎摘除術では、後腹膜腔鏡下手術(いわゆるラパロ)の他、臓器摘出のための必要最小限(通常4~8cm)の皮膚切開で手術を行うミニマム創手術を取り入れ、最近では放射線治療は、眼に見えない放射線という物質を巧みに操ることで腫瘍性疾患を消滅・縮小させるものです。うまく使えば手術や化学療法以上に素晴らしい力を発揮します。もちろん欠点もありますから、他の治療との連携が非常に重要です。そして、患者さんの意識がある状態で行うことが多いので、患者さ	ア 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター http://www.onh.go.jp/uro/index.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
			実績 あり	あり	あり	あり	あり	あり	なし		イ http://				
2 放射線治療科	2	2	状況 ×	×	×	×	×	×	○	当科では出来る限り小さな皮膚切開で手術を行うことを心がけています。 腎癌や腎盂・尿管癌に対する腎摘除術では、後腹膜腔鏡下手術(いわゆるラパロ)の他、臓器摘出のための必要最小限(通常4~8cm)の皮膚切開で手術を行うミニマム創手術を取り入れ、最近では放射線治療は、眼に見えない放射線という物質を巧みに操ることで腫瘍性疾患を消滅・縮小させるものです。うまく使えば手術や化学療法以上に素晴らしい力を発揮します。もちろん欠点もありますから、他の治療との連携が非常に重要です。そして、患者さんの意識がある状態で行うことが多いので、患者さ	ア 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター http://www.onh.go.jp/radiolog/	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
			実績 なし	なし	なし	なし	なし	なし	あり		イ http://				
3			状況								ア http://				
			実績								イ http://				
4			状況								ア http://				
			実績								イ http://				
5			状況								ア http://				
			実績								イ http://				

グループ指定を受ける施設との連携状況
 ※グループ指定を受ける場合のみ記載すること

例:腎細胞がん
 腎細胞がん

昨年の治療実績ありの疾患名
 ※平成25年1月1日~12月31日